

大学入試のあり方に関する検討会議
ヒアリング（第7回会議）資料

「大学入試学」から見る高大接続改革

倉元直樹

東北大学高度教養教育・学生支援機構教授

発言要旨

- 自己紹介
- 大学入試を研究する
- 高大接続改革と東北大学
- どこで間違えたのか？
- これからの大学入試
- 今、一番大切なこと

自己紹介

- 氏名：倉元直樹（くらもと なおき）
- 東北大学高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門入試開発室（**東北大学入試センター**）教授
- 所属学会：日本テスト学会、日本教育心理学会等
- 職歴：大学入試センター研究開発部（8年4カ月）
東北大学アドミッションセンター
同入試センター（21年1か月）
- **入試研究**に携わって通算30年近く、**実務**に携わって約21年

大学入試を研究する (1)

・ 大学入試学 (Admission Studies)

← まだ存在しない、これからの学問

1. 大学入試という営みは 学問の対象と思われていない

2. 誰しもが 自らの経験を基に持論を語ることができる

→ 時代遅れの前提、非現実的理想論

3. 大学入試の科学化は 旧文部省の悲願であった (嶋野, 2003 / 2020)

大学入試研究の成果の一端を紹介し、「大学入試学 (admission studies)」の必要性和有効性を訴える新シリーズ

ADMISSION STUDIES 東北大学大学入試研究シリーズ

倉元直樹 [監修] 各巻 A5 判

様々な議論を呼び起している大学入試改革。大学入試研究における第一人者たちが、大局的な視点で大学入学者選抜制度設計のあるべき姿を考察・提示する。

「大学入試学」の誕生

倉元直樹 [編]

204ページ・A5判 2,700円＋税

実証的な「大学入試研究」確立を旨として。

CONTENTS

第1部 「大学入試学」の誕生

第1章 「大学入試学」の誕生をめぐって

第2章 国公立大学におけるアドミッション・オフィスの系譜

第3章 「大学入試学」の基礎

第4章 「大学入試学」の展開

第5章 国公立大学におけるアドミッションセンターの組織と機能

第2部 大学入試研究の調査と発展

第6章 「大学入試学」の調査報告

第7章 大学で実用されている入試研究の実践報告

第8章 国公立大学の入試研究に関するレビュー研究

第9章 大学入試研究者の養成

第3部 大学入試研究の可能性

第10章 「入試学」としての大学入試研究

第11章 大学入試研究における「入試学」の発展可能性

第12章 国公立大学におけるアドミッションセンターの組織と機能

大学入試センター試験から大学入学共通テストへ

倉元直樹 [編]

170ページ・A5判 2,300円＋税

大学入学共通テストの元途に向けて、旧センター試験の成立から選抜へのプロセスを学問的に追ひ、大学と高校の取べき方法を考える。

CONTENTS

第1部 大学入試研究の発展

第1章 大学入学共通テストの導入とその周辺

第2章 大学入学共通テストの導入とその周辺

第3章 大学入学共通テストと大学入試センター試験

第4章 共通テストの導入とその周辺

第2部 大学入学共通テストの展開

第5章 大学入学共通テストの導入とその周辺

第6章 共通テストの導入とその周辺

第7章 国公立大学における入試改革の調査報告

第8章 国公立大学の選抜学力養成における共通テストの活用

以下続刊

シリーズ 第3巻 2020年5月 刊行予定!

『変革期の大学入試(仮)』 宮本友弘 [編]

最新情報・詳細・ご注文はこちら

金子書房 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-3-7 TEL: 03-3941-0111 (代) / FAX: 03-3941-0163 URL: http://www.kanekoshobo.co.jp 2020年3月発行

大学入試を研究する (2)

- 大学入試学とは？
- 大学入試学の目的
 - **機関研究** → 所属大学のため
(事例) 研究成果としての**東北大学**
「高校からの評価ランキング」
 - **総合評価** (**15年間で14回 全国1位**)
 - **生徒が伸びた** (4年連続全国1位)
 - 情報開示 (**広報**) に熱心
(6年連続全国1位)

2020/5/14

東北大学 倉元直樹



5

大学入試を研究する (3)

• 大学入試学 の特徴

- 基礎学問ではなく、ハイブリッドな実践的学問領域
- 評価者 は学会の専門家というよりも 一般社会
 - ← 社会とのコミュニケーションが重要
- 普遍的、法則定立的ではなく、問題解決型
 - ← 現在の 日本の大学入試 に関わる問題解決に知恵を出す
- 証拠（エビデンス）に基づく 実証的学問
- 大学入試学のフィールドとしての 東北大学 は？

高大接続改革と東北大学 (1)

1. 高大接続改革における東北大学の立場の変化

① 里見進前総長【国大協入試委員長 → 会長】時代

- 高大接続改革の積極的推進
- 学力重視の東北大学型AO入試の拡大（募集人員比30%）

② 実現不可能な改革案に関して何度も意見を具申

③ **直面する問題解決に向けての意思決定**

- ← 日常的なコミュニケーションによる高校の実態把握
- 質問紙調査による高校側の意見の把握
- 早期からのWG活動、学内コンセンサスの形成

高大接続改革と東北大学 (2)

2. 東北大学が直面した**4つの課題**と解決方策

【原則】 改革年度の**受験生の努力**を無駄にしない

- ① 共通テスト記述式導入による**AO入試Ⅲ期の日程問題**
→ 自己採点利用方式による第1次選考
- ② 一般入試における**英語4技能の評価**
→ H33は**英語民間試験は利用せず**、A2レベルを出願基準に
- ③ 共通テストにおける**国語記述式の利用**
→ 合否ラインで同点に並んだ際に利用
- ④ 一般入試における**主体性評価**
→ 自己申告（チェックリスト5項目）、**調査書は根拠資料**

高大接続改革と東北大学 (3)

3. 昨年末の方針転換 を受けた現状

- ①、③は撤回、②、④はそのまま

← 受験生には実質的影響なし

4. 東北大学の方針決定に寄与した背景要因

- 最初から 改革がとん挫することを予想 していた
 - 根拠：大学入試センター試験業務に関する知識

大学入試センターへの実地調査 (研修、計3回)

- 学内コンセンサス形成：WGを通じた 情報共有

高大接続改革と東北大学 (4)

• **高校調査** とその活用

- 目的：高大接続改革への **東北大学の意思決定** のため
- 対象：東北大学への受験者、合格者が多い高校
- 第1回調査（2018年1月～4月）（倉元他，2019，2020等）
 - 自己採点利用方式導入やむなし：**58.5%**
 - 記述式問題活用とても重視してほしい：**5.6%**
 - 英語民間試験一般入試全受験者適用賛成：**8.3%**
- 第2回調査（2018年12月～翌年4月）で確認
- 大学入試室も調査に賛同（朝日新聞報道による）

どこで間違えたのか？ (1)

- そもそも何が問題なのか？ **誰のための改革** か？
- 高大接続答申（2014）で描かれた高校教育？
 - 臨教審答申（1985）の時代？（倉元，2017 / 2020a）
 - 現代中国の高校教育？（倉元・尹，2020）

1. **学校段階における役割分担**

- **初中等教育と高等教育は起源から違っている** のでは？
- 現代に合わせた変化は当然だが、シームレス論は奇妙

どこで間違えたのか？ (2)

2. 大学入試が高校教育に与えている影響

- 大学入試の三原則 の一つ (佐々木, 1984)
- 学士課程答申 (2008) では、大学入試の影響力低下を認識していたはずでは？ (倉元, 2017 / 2020a)
- 大学入試の 影響力の局所性 (倉元, 2004)

3. 共通テストと個別試験の役割

- 共通1次とセンター試験の設計思想 (倉元, 2013)
- 入試に携わる関係者の心情：教育への使命感 か自ら教育する 学生への期待感 か (倉元, 2019)

どこで間違えたのか？ (3)

4. 各大学の多様性

- わが国では入学者の選抜権は大学にある
- 入試の多様化 は1990年代からの錦の御旗
- 入試の多様化とAO入試の位置づけ (倉元, 2009)

5. 施策のフィージビリティ

- 「2年前予告」では間に合わない (倉元, 2012)
- 受験生保護の大原則 (倉元, 2020b)
- 初等教育からの変革 を待つ必要がある課題も

どこで間違えたのか？ (4)

- 大学入試改革の副作用は大きい (倉元, 2014a)
 - 理念からの出発 → **混乱を招く**
 - 改革には副作用 → 手順を詰めて慎重な吟味
 - **出口からの議論** が必要ではないか？
- 大学入試は **妥協の芸術** (倉元, 2014b)
 - 一つのロジックで皆が満足する解は得られない
 - 下手な妥協と上手な妥協がある
- **もう一度、問題設定からやり直しませんか？**

これからの大学入試 (1)

- **個別試験の重要性** (宮本・倉元, 2017)
 - ← 高大接続改革の議論で見えてきたこと
- 高大接続改革における審議の経過と個別試験
 - 審議経過の中で **個別試験廃止論** (土井, 2020)
 - 高大接続答申では「主体性評価」の役割
 - 共通テスト記述式導入の無理 (倉元, 2017 / 2020a)
 - **高度な学力の測定に関する個別試験への回帰**

これからの大学入試 (2)

国立大学の二次試験における国語、小論文、総合問題に関する募集人員の概算

別紙2

国立大学の二次試験において、国語、小論文、総合問題のいずれも課さない学部の募集人員は、全体の**61.6%** (49,487人/80,336人)

(学部単位の募集人員数の合計)

	募集人員	国語			小論文		総合問題		国語、小論文、 総合問題の いずれも 課さない
		必須	選択	課さない	課す	課さない	課す	課さない	
前期	64,787	15,803	4,757	44,227	3,949	60,838	1,149	63,638	39,470
		24.4%	7.3%	68.3%	6.1%	93.9%	1.8%	98.2%	60.9%
後期	15,549	50	258	15,241	4,203	11,346	1,041	14,508	10,017
		0.3%	1.7%	98.0%	27.0%	73.0%	6.7%	93.3%	64.4%
全体	80,336	15,853	5,015	59,468	8,152	72,184	2,190	78,146	49,487
		19.7%	6.2%	74.0%	10.1%	89.9%	2.7%	97.3%	61.6%

※下段は割合

注1)「小論文」と「総合問題」について、選択科目となっている場合は、「小論文を課す」「総合問題を課す」として計上している。

注2)総合問題とは、複数教科を総合して学力を判断する総合的な問題を指す。

※各大学の発行する「入学者選抜要項」を基に作成

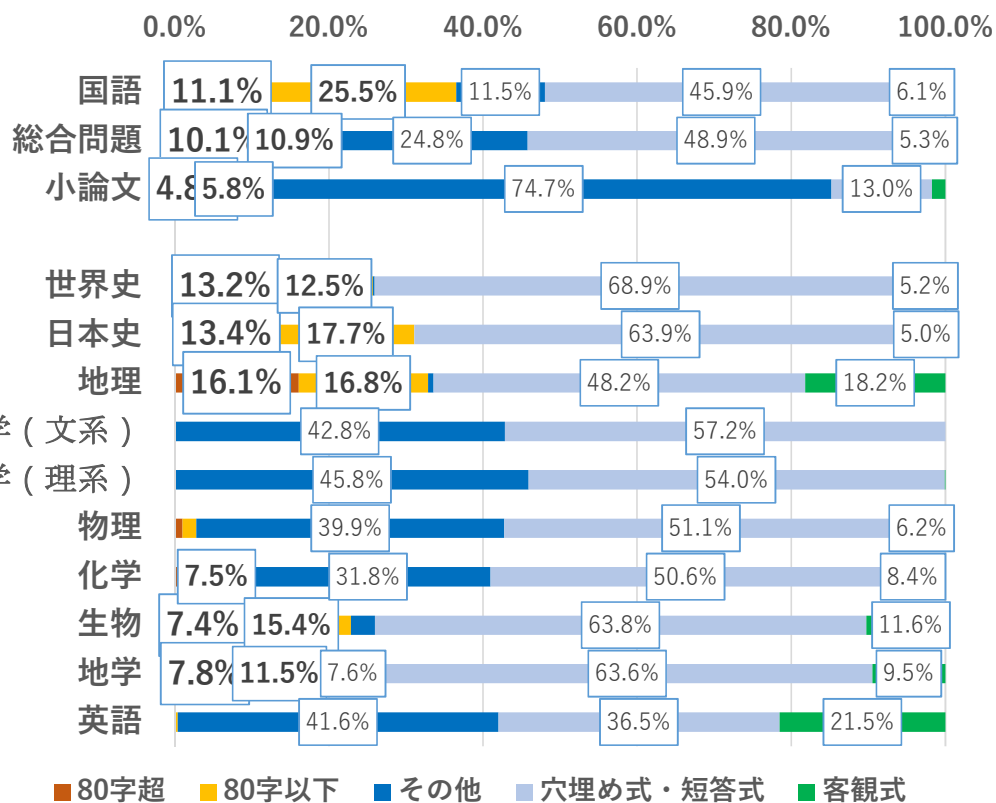
- 共通テスト記述式導入の根拠資料
- 教科単位の分析
(**国語・小論文・総合問題**を課さない募集人員が約6割)
- 記述式はこの3教科だけではない!

これからの大学入試 (3)

	募集人員	記述式問題（穴埋め式・短答式を除く）	
		解答あり	解答なし
前期	65,161	62,229 95.5%	2,932 4.5%
後期	15,789	11,519 73.0%	4,270 27.0%
全体	80,950	73,748 91.1%	7,202 8.9%

- 一般入試全ての教科・科目について **小問単位** の分析
- 集計は前頁資料と同じ
- 国立大学で記述式を課さない学部の受験者は **1割弱** に過ぎない

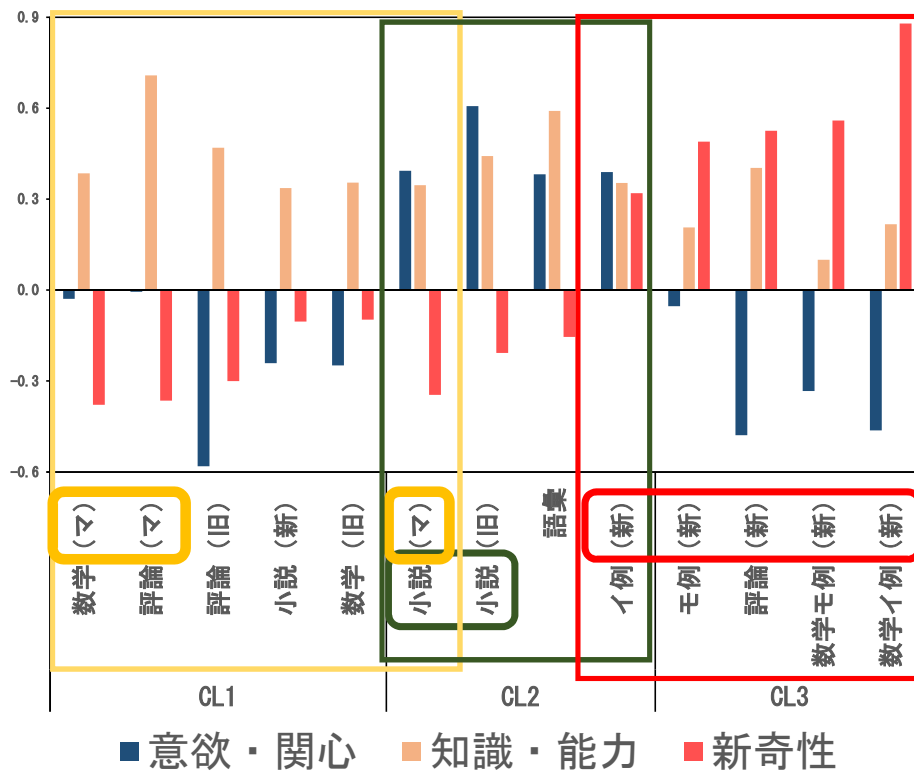
これからの大学入試 (4)



宮本・倉元 (2018)

- 主な教科・科目の傾向
- 記述式 (**80字超**、**80字以下**、その他、穴埋め式)、客観式
 - 文系：出題数から言っても **国語** に期待
 - 理系：**理科** である程度、出題されている

これからの大学入試 (5)



東北大学 (2019)

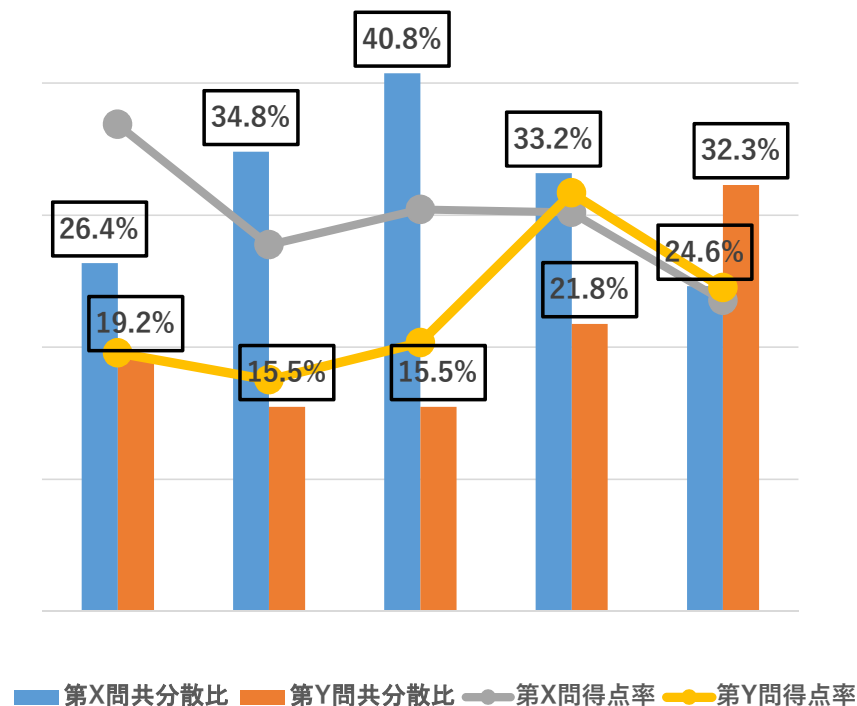
- 文部科学省 **委託事業** (国語) の成果より
 - **受験者** (高校生) の評価
 - **国語問題** が評価する **特性**
 - **知識・能力** は **マークシート** でも評価可能
 - **意欲・関心** は **小説**
 - **新奇性** は **新傾向問題**

これからの大学入試 (6)

- 個別試験の役割
 - 入試問題は選抜のツールであると同時に **無償の教材**
 - 高校教員は **良質な入試問題** を使って教科指導
 - 高校の視点に立つと入試問題は各大学の **実質的なアドミッション・ポリシー** (高梨, 2011)
- 個別試験の改善に向けて
 - **作題負担** をどうするか → **コンソーシアム化** は？
 - 東北大学の事例：教科・科目別の **特任教授** 制度

これからの大学入試 (7)

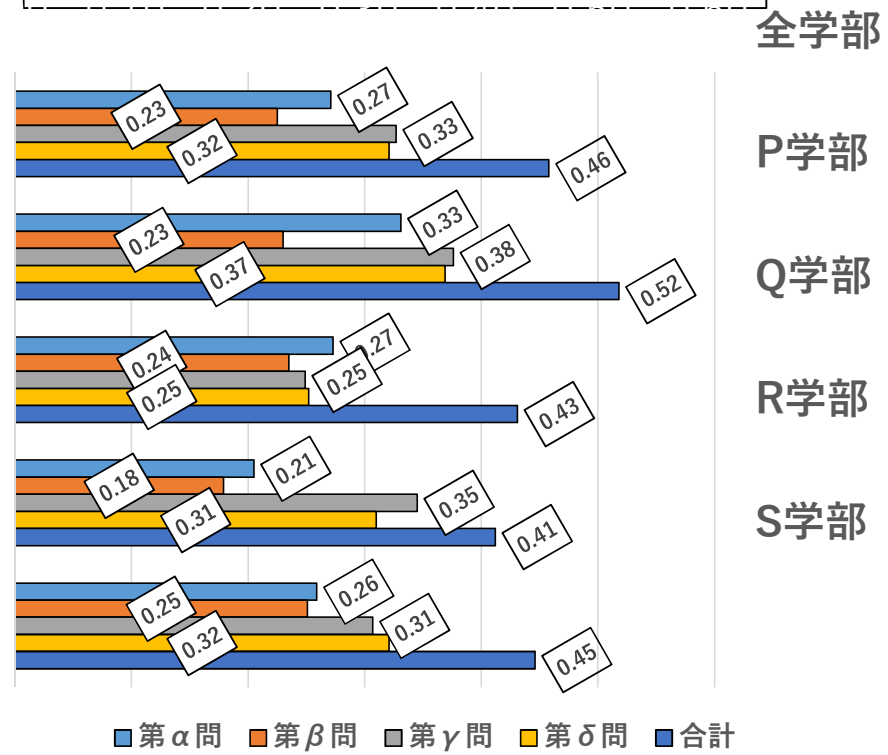
A学部における国語 第X問と第Y問の難易度と合計点への寄与度



- 東北大学における個別試験問題の取組事例 (1)
- 年度ごとに **安定した作題** への模索
 - ← フィードバック情報
 - A学部の5年間の正答率と合計点への寄与度
 - **第X問** と **第Y問** の比較

これからの大学入試 (8)

X年度における国語各大問の学部ごとの合否判別への寄与度



- 東北大学における個別試験問題の取組事例 (2)
- 学部ごとに **受験者の特性** は違う
 - ある年度のP、Q、R、S学部の **合否判定への寄与度**
 - 学部ごとに **合否に利く大問** が異なる

これからの大学入試 (9)

- 大学入学者選抜は **一般選抜(一般入試)が基本**
 - 広がりすぎた推薦、AOの制御は課題
- 望まれる **支援**
 1. エビデンスに基づく **現状分析から出発** する改革論
大学入試学の普及 → 大学入試学会の必要性
 2. **個別試験の強化**
作題体制の強化 → 専門家養成、コンソーシアム化
 3. 急ぎすぎない、**長期的視点での改革** を

今、一番大切なこと

- 令和3年度入試の受験生をロストジェネレーションにしない!
- 入試改革に翻弄された世代 ← コロナが襲う
- 大人が最大限の努力 を見せるべき
- 3段階のコンティンジェンシー・プラン
- 彼らが 目標 にしてきた入試 (=選抜方法) を 可能な限りそのまま実現する方策 を考えましょう!

参考ウェブサイト / 文献リスト (1)

参考ウェブサイト <http://www.tnc.tohoku.ac.jp/notice.php>

<http://www.adrec.ihe.tohoku.ac.jp/>

<http://adchan.ihe.tohoku.ac.jp/>

朝日新聞出版 (2020). 『2021年版 大学ランキング』 朝日新聞出版アエラムック編集部

土井真一 (2020). 「中教審高大接続答申から考える」 倉元直樹編『大学入試センター試験から大学入学共通テストへ』 金子書房, 8-29.

倉元直樹 (2004). 「新学習指導要領の下での高等学校の教育内容について——大学入試との関連から——」 『日本高等教育学会第7回大会発表要旨集録』 156-157.

倉元直樹 (2009). 「AO入試のどこが問題か——大学入試の多様化を問い直す——」 『日本の論点2009』 文藝春秋, 596-599.

倉元直樹 (2012). 「大学入試制度の変更に伴うスケジュール問題の構造」 東北大学高等教育開発推進センター編『高等学校学習指導要領 VS 大学入試』 東北大学出版会, 53-89.

倉元直樹 (2013). 「大学入試センター試験における対応付けの必要性」 『日本テスト学会誌』 9, 129-144.

倉元直樹 (2014a). 「大学入試制度の変更は何をもたらしたのか? ——昭和62年度改革の事例——」 『大学入試研究ジャーナル』 24, 81-89.

倉元直樹 (2014b). 「受験生から見た『多様化』の意義——東北大学型AO入試と一般入試——」 独立行政法人大学入試センター研究開発部編『入試研究から見た高大接続——多様化する大学入試にせまる——』 2013大学入試センター研究開発部シンポジウム報告書, 24-37.

倉元直樹 (2019). 「大学入試改革の『根本問題』が、いよいよ明らかになってきた——公平性を犠牲にして追求すべき価値とは——」 『現代ビジネス (ウェブ雑誌)』 講談社, 2019年12月8日 6:00am掲載, <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69019> (閲覧日2020年5月12日) .

参考ウェブサイト / 文献リスト (2)

倉元直樹 (2020a). 「大学入試センター試験はなぜ廃止の危機に至ったのか」 倉元直樹編『大学入試センター試験から大学入学共通テストへ』金子書房, 30-43.

倉元直樹 (2020b). 「受験生保護の大原則と大学入試の諸原則」 倉元直樹編『「大学入試学」の誕生』金子書房, 6-17.

倉元直樹・尹得霞 (2020). 「中国の大学入試政策——韓国, 台湾, そして, わが国における高大接続改革との関連性を中心に——」『全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会研究発表予稿集』(印刷中)

倉元直樹・宮本友弘・長濱裕幸 (2019). 「高大接続改革への対応に関する高校側の意見——東北大学のAO入試を事例として——」『日本テスト学会誌』 **15**, 99-119.

倉元直樹・宮本友弘・長濱裕幸 (2020). 「高大接続改革に対する高校側の意見とその変化——『受験生保護の大原則』の視点から——」『日本テスト学会誌』 **16**, 87-108 (印刷中) .

宮本友弘・倉元直樹 (2017). 「国立大学における個別学力試験の解答形式の分類」『日本テスト学会誌』 **13**, 69-84.

宮本友弘・倉元直樹 (2018). 「国立大学の個別学力検査における記述式問題の出題状況の分析——80字以上の記述式問題に焦点を当てて——」『大学入試研究ジャーナル』 **28**, 113-118

佐々木亨 (1984). 『大学入試制度』大槻書店

嶋野英彦 (2020). 「国立大学におけるアドミッション・オフィスの系譜」 倉元直樹編『「大学入試学」の誕生』金子書房, 18-37.

高梨誠之 (2011). 「メッセージとしての大学入試問題」 東北大学高等教育開発推進センター編『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』東北大学出版会, 183-198.

東北大学 (2019). 「モニター調査」北海道大学 (選定機関) ・東北大学・九州大学・長崎大学・大学入試センター (連携機関) 『個別学力試験「国語」が測定する資質・能力の分析・評価手法に関する研究——記述式問題を中心に——』文部科学省『大学入学者選抜改革推進委託事業』選定事業 人文社会分野 (国語科) 平成30年度活動報告書, 75-138, https://www.mext.go.jp/content/1412873_3_1.pdf (閲覧日2020年5月13日) .